

学びをひろげる (第19回)

※ ○は、自分以外の参加した人の数です

まる (わたしと○人の会)

2017年 本年もよろしくお祈りします。

日時 2017年2月11(土) (1時45分~5時)

場所 阿倍野市民学習センター

(あべのベルタ3階) 第2会議室

〒545-0052 大阪市阿倍野区阿倍野筋3丁目10-1-300 ☎06-6634-7951



最寄駅
JR 環状線(天王寺駅)
地下鉄御堂筋線・谷町線(天王寺駅)
近鉄南大阪線(大阪阿倍野橋駅)
徒歩7・8分

一人で拡がらない学びを○(まる)人が集まり、多様な人たち(年齢、国籍、職種など様々な人たち)との出会い・対話を通して自分の学びを上げ、授業づくり・教材づくりをしませんか。もう一度、教育・授業のあり方をていねいに見つめ語り合しましょう。



前回 第18回の内容

牧口一二人さん提案：牧口一二人が体験した学校、授業

またたく間に聞く者を「牧口 world」に引き込み、あっという間の90分のお話でした。例えばこんな具合です—

▼小学校入学期に母に負ぶわれて身体検査に行ったが、戦争中で「空襲の時に危険だから」と断られた。帰り道、ぼくを負ぶって泣きながら歩く母のうなじをなぜか覚えていて、今も時々思い出す。

▼敗戦後3年遅れの1年生として、また母に負ぶわれて学校に行くと、先生が「お待たせしました」と迎えてくれた。

▼父がうれしそうに目の前で風呂敷を開くと、黒光りの松葉づえがあった。「これがお前の足や」と。初めて一人で学校に行けた日、早く着きすぎて友だちは誰も教室にいない。職員室で先生に見せびらかした。担任の女先生が抱きしめてくれて背中をトントン、ぼくは先生のお尻をトントン、柔らかなお尻だった。

▼体育の時間は、ほとんど嫌な思い出がない。ぼくはひょっとしたら体育の時間に育てられた人間かもしれない。

▼中学校からボチボチ進路を考え始めた。「イッチャンは早ヨ手に職をつけなあかな」と言われることも多かったので、工芸高校へ進もうと考えた。そんな時中学の美術の先生が「きみのような人ほど、ゆっくり考えた方がいい。世の中にはいろんな仕事があって、人間に関わりのない仕事はない」といわれた・・・、と、まあこんな具合です。牧口さんの人生が肩肘の力を抜いた、柔らかな言葉で語られます。耳も心も心地よくふるわせながら、私たちのからだに染み込んでいきます。「障害者運動との出会いは必然だった」という言葉は、この自然さを意味しているのかもしれませんが。

世界は、日本でも、ますます能力主義、競争主義、評価主義が広がって、「共に学び、共に育ち、共に生きた」牧口さんの人生・牧口 world への逆流が、世界を覆っているかのようにも映ります。世界の状況が厳しさを増すほどに、「ちがうことこそええこっちゃ」「人の力を借りたらなんでもできる」「孤独は楽しめるけど、孤立はねえ」という牧口さんの柔らかなでしたたかな「共生」の思想が、私たちに数限りない示唆を与えてくれるにちがいありません。



前回研究会の様子。テレビの取材も入りました。

今回 第19回は



これまでの18回の研究会を振り返って、3人のスタッフがそれぞれの総括を提案します！

2013年9月7日の第1回研究会に始まって、昨年12月の18回研究会で、“学びをひろげる わたしと○人の会”は3年半を経過することになりました。堀智晴、山本卓雄、松森俊尚が、「3人の会」と呼び合うスタッフ会議で、なんとか続いてきたね。課題は多々あるだろうけれど、毎回面白かったし、内容も充実してきたのでは…などと、めずらしく来し方を振り返る話になりました。新年あけて早々だったのにね。

そこで、今回は研究会を総括してみるのも結構面白いのではないかと考えました。3人のスタッフがそれぞれの総括を提案して、参加者で今後の方針を展望してみたいと思います。今までの提案者にも出席していただけると、さらに興味が増すというものです。みなさん、参加してください。

「学びをひろげる」スタッフ 堀 智晴、松森 俊尚、山本 卓雄

連絡先 松森 (☎090・1960・3469 ☎✉gakimon57tm@ezweb.ne.jp ☎✉matumori@crux.ocn.ne.jp)

山本 (☎✉yamamoto5.cham@gmail.com) 堀 (☎✉hori720@hotmail.com)

★次回第20回研究会は、2017年4月15日(土) 午後1時45分~5時 クレオ大阪東・研修室★

終了後、会場近くで恒例となっている交流会をします。ござってご参加ください。